

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103276
法人名	株式会社プログレス
事業所名	グループホーム愛愛
訪問調査日	平成20年9月1日
評価確定日	平成20年10月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103276
法人名	株式会社プログレス
事業所名	グループホーム愛愛
所在地	鹿児島市川上町2751番地16 (電話)099-244-8876

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 7月 11日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.9人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

## (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4	4	名
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 84歳	最低 76歳	最高 99歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	新牧医院、よしの相良外科胃腸科、大迫歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑の多い閑静な住宅街の中にある。開設して5年を経過し、理念である「人として尊重する」「できる事探しから始めましょう」の取り組みが浸透し、職員に見守られながら利用者が自主的に共同生活にかかわっている。協力病院、主治医との医療連携も充実し2週間に1回往診を受け、24時間対応体制もできている。地域との関係も良く取れており、ホームの行事にも家族と共に協力、参加ができています。管理者は職員に対しても、細やかな心配りを示し、働きやすい環境を整えている。現在、個別性をとらえた支援に職員が一体となり取り組み、利用者、家族、職員が笑顔で過ごせる運営が実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回、外部評価での指摘事項なし。月、1回の職員会議の中で「利用者主体とは」、「地域に開かれたサービスとは」を検討、話しあいを持ち、管理者・職員は常に理念に沿ったサービス向上実現に努力されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価の意義とねらいについて管理者・職員で話し合い、全員で自己評価に取り組む。結果として気づきや今後の課題、個人目標も分かり、自己評価の取り組みの重要性を認識している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	定期的に地域代表者、さまざまな立場の人の参加をもらって開催している。ターミナルケアについても話し合いがなされ、知識の必要性、医療機関との密な情報交換、家族との信頼関係の構築などの意見もあり、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	相談、苦情については説明文書を明記し、入居時に説明している。運営推進会議に家族代表も参加し、意見、苦情など表せる機会を設けている。また、意見や要望を含むアンケートをとり、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	自治会に加入し、老人クラブやいきいきサロンに参加している。職場体験、近隣の子供たちとのふれあい、ボランティアの受け入れ、災害訓練時の協力関係など、地域との交流が盛んに行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者主体とは」「地域に開かれたサービスとは」をふまえ、職員全員で検討、話し合いをもち、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や室内、トイレに掲示している。毎朝、職員全員で唱和し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域交流会実施計画を掲げ、地域・町内会のボランティアなどを受け入れ、老人クラブにも参加している。地域の子供たちの来訪もあり、利用者の元気のもとになっている。看護学生の実習、中学生の職場体験も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、ねらいについて管理者、職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。気づきや今後の課題、個人目標も分かり、自己評価の取り組みの重要性を認識している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている。活動内容の報告、時期的に取り上げやすい議題をとりあげ、町内会長、民生委員、消防士、栄養士、教師、保育園長、理髪店主などの質問、意見、要望、評価、アドバイスをもらってサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れ、運営、サービスについて相談しながら、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年、4回発行している。面会時や毎月の手紙、電話、メールで利用者の暮らしぶりや健康状態の近況報告をしている。金銭管理は立て替えのシステムで行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口の設置を説明している。年2回の家族会や面会時に気軽に相談してもらうよう、呼びかけている。意見や要望を含むアンケートも実施している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのスムーズな関係が作れるよう移動準備期間をもうけるなど、利用者、家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を掲げ、外部研修は職員の段階に応じた研修に参加し、職員会議で報告している。月1回、課題をあげて勉強会を行い、技術向上に努めている。また、資格取得できるように支援し、全員が資格取得者である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修事業などを通して知識や技術を磨いている。また、グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に何回かホームに来訪してもらい、場の雰囲気になじめるよう支援する。家族から利用者の性格、趣味などの情報を十分聴き、他の利用者、職員となじんでいけるよう、また自宅に居た時と変わらない生活ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	対等であるという関係をしっかり意識し、利用者の出来る事探しに目をむけ、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや訴えの傾聴、利用者同士の会話また表情や動きを見ながら利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、安心して過ごせるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医からの要望、意見を聞き、サービス担当者会議、職員間での情報交換を行い、利用者本意の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の変化や要望に応じて利用者、家族、医療機関、職員と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院や送迎、受診介助の支援をしている。また年に2～3回、主治医による症状説明や相談会を実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力病院、事業所の良好な協力関係を築いている。2週間に1回の往診を実施し、24時間対応も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議においてターミナルケアについて話し合い関係者の認識はできている。重度化や終末期に対して家族、医師、看護師を交えて話し合い、職員も共有している。また利用者、家族に対して最善の対応ができる統一した指針もある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に必ず個人情報に関する説明、同意をもらっている。利用者の尊厳を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やその時の天候、時間にあわせて自然に利用者一人ひとりの役割が演出できるよう努力、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	余裕のある食事時間を設けており職員はサポートの必要な利用者の隣に座って会話や笑いを楽しみながら、ゆっくり食事を摂っている。食事の準備から後片付けまで利用者、職員と一緒に見守りながら行っている。食事が利用者一番の楽しみのひとつとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	広々とした浴室で複数でも入浴ができる。一日置きの入浴日で利用者の習慣や希望に合わせて、入浴の時間帯、回数など流動性をもった支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事、得意な事、好きな事を見つけ、利用者に合った活躍の場面を毎日の暮らしの中に作り、自信を高める支援ができています。塗り絵や習字など楽しんでいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外での散歩、ベンチでお茶を楽しむなど支援している。ドライブをして気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員も理解している。一人ひとりの状態を把握し、情報の共有を図り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、地域の参加をもらって避難訓練と講話を定期的に行っている。同時に心肺蘇生術などの訓練も実施している。救急時の症状別対応マニュアルも作成し、活用されている。災害に対する備品、備蓄がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量の記録と月1回の体重測定を行い、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保が出来るよう、支援している。栄養バランスは協力医院の栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓のある開放感のある明るい広々した共用空間である。利用者の作品や催しなどの写真、新しい利用者の紹介や職員、利用者の写真もあり、早めになじめる環境作りが工夫されている。生活感や季節感を取り入れ、利用者は居心地よく過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット、クローゼットは家族、利用者と相談し、使いやすい配置にしている。利用者のなじみの物が持ち込まれ安心して生活できるよう工夫している。		